

マーケットの動き (2023年1月4日～1月6日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。年始で薄らいの中、5日の10年国債入札では新しい長期金利の指標となる新回号の利回りが許容変動幅の上限である0.5%に達しました。日銀の国債買い入れオペが金利上昇を抑え込む一方で、日銀の金融政策修正に対する警戒感から流動性が低下しており、長期金利は許容変動幅の上限付近で週を終えました。クレジット市場は、取引量が少なく動意に乏しい展開となりました。

投資環境見通し (2023年1月)

国内長期金利は、日銀が拡大した許容変動幅の中で、新たなレンジ内での動き

春闘後の賃上げ動向に加えて、4月の日銀総裁任期満了を控えて次期総裁人事とともに大規模緩和政策の修正に対する関心が高まる中、年度末において金利上昇圧力が高まる可能性があります。しかし、米国や欧州におけるインフレ率上昇が一服し、中央銀行による政策転換が意識されることは当面の金利低下圧力とみられ、国内長期金利は0.3%～0.5%程度と許容変動幅の拡大された水準の中でレンジ内で推移するとみています。

	1月6日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.50	0.07	0.24	0.25	0.38
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	366.70	0.03%	▲1.27%	▲2.55%	▲4.99%

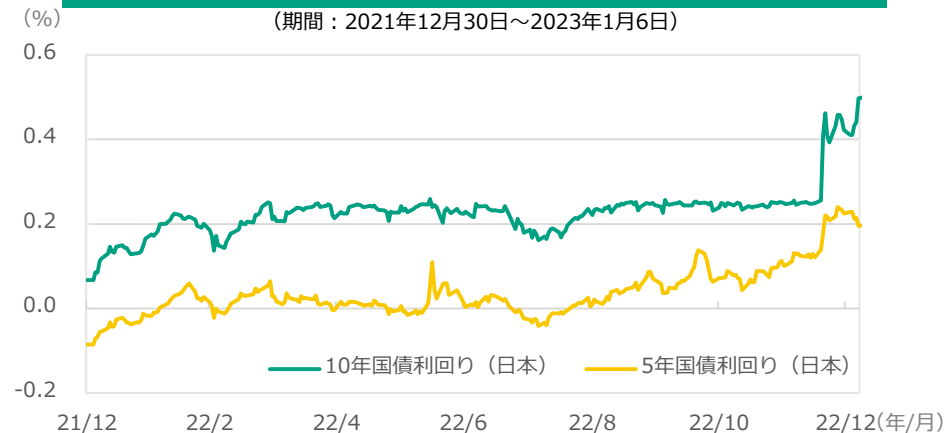
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202301_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移



NOMURA-BPI総合指数の推移



※2021年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成